

保護者の皆様へ

人権講演会のご案内

記

・ ・ ・ ・ ・ ち り と り ・ ・ ・ ・ ・

() 年()組()番 生徒名

講師の方の紹介

「原子爆弾と被爆者差別」

9歳のとき、小学校の校庭で朝礼中に原爆が落ちる。凄惨な光景と生徒たちの泣き叫ぶ声、自身も左腕を怪我しながら恐ろしい状況の中を過ごした。その後も原爆の恐怖心は消えることがなく、当時の情景を思い出して夜中に目が覚めることもあった。髪の毛は抜け、歯茎から血が出ることもあったが、周囲の原爆被害者の声に励まされて支えられてきた。しかし、避難先では同世代の子どもたちから、「ピカドンの子は、うつるからあっちにいけ」とのけ者にされ、いじめられた。自分が被爆したことを打ち明けられなくなり、結婚するときも相手家族に秘密にしていた。高校生のときに、クラス雑誌で自分の被爆体験談を書いたが誰も自分の苦悩を受け止めてはくれず、そのことでますます被爆したことを隠すようになった。その後、NHKの番組出演がきっかけで、ようやく自分の苦しみが周囲にも理解してもらえるようになる。

人権は命であり、戦争で命を奪うということは人権を奪うということ。そして悲惨な目にあって差別を受けるということは人権をむしばんでいるということ、人権を無視しているということ。そういうことが起こらないよう、この平和を皆で守っていきたい。東日本の復興を一日も早く願っている。

自分が受けた差別はひどいものだった。今ほど情報がなく、「ピカドンの子」「広島は75年草木も生えないぞ」「復興なんてとんでもない」と言う人がいた。自分の子どもが生まれるときは、どんな子どもが生まれてくるのか不安で仕方なかった。怖くて逃げてしまうほどだった。孫が生まれるときも同じく怖かった。

※『被爆』は、爆撃を受けること。『被曝』は科学物質などにさらされること。通常は放射線にさらされることを意味します。